

生ごみ等の有機資源を活かした循環型農業推進事業

自治体の紹介 背景

まにわし 岡山県真庭市とは

真庭市は2005年に9町村が合併し、誕生しました。

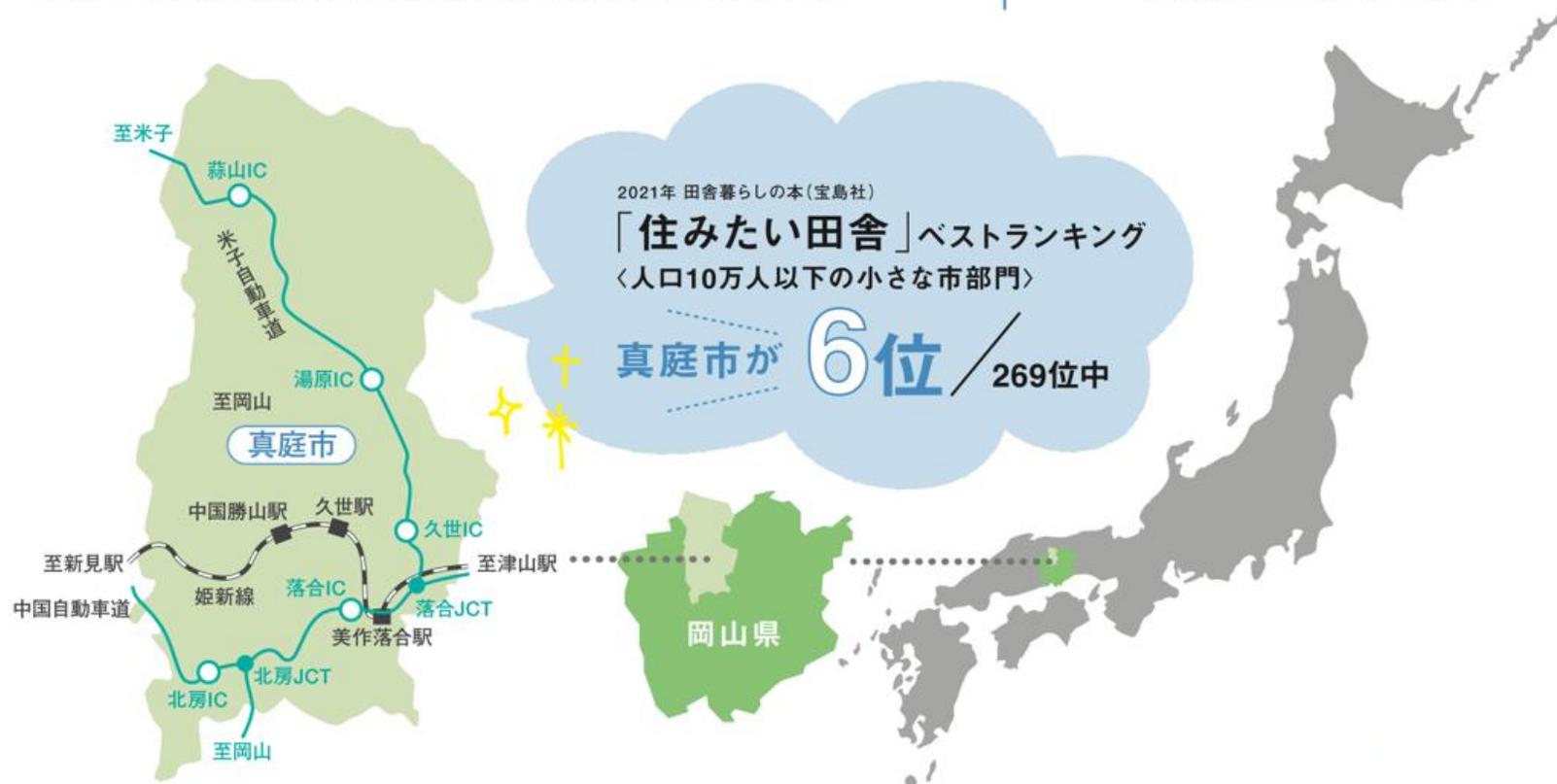
市の北部には蒜山高原が広がり、日本一を誇るジャージー牛の乳製品は全国的に知られています。南部は農林業が盛んで、泉質良好な湯原温泉、のれんの町並みで知られる勝山町並み保存地区などがあります。

良質なスギ・ヒノキを産出する林業、木材加工業が盛んで、市の象徴であるバイオマス産業を支えています。近年、出力1万キロワットの木質バイオマス発電が稼動。「里山資本主義」の先進的取り組みとして、全国から注目を集めています。

- 面積** 約828km²(東京都23区の1.3倍)
- 人口** 43,915人(令和3年4月1日現在 住民基本台帳)
- 気候** 北部 豪雪 南部 温暖小雨
- 産業** 西日本有数の木材集散地域
日本最大のジャージー牛の酪農地帯
- 安全** 災害が少ない、活断層がない
震度4以上の地震がほとんどない



国立公園 蒜山



木質バイオマス発電所

現状の 課題

- ごみ処理コストの負担増（人口5万人弱のまちに3つの焼却場）
- ごみ処理施設の老朽化
- 人口は減ってもごみは減らない！？

課題の 解決手段

- 持続可能なごみ処理のしくみづくり 処理 → 再資源化
- 燃えるごみの多くを占める生ごみを資源化へ（液体肥料へ）
- 汚水処理も合わせて効率的なごみ処理へ
-

生ごみ等の有機資源を活かした循環型農業推進事業

事業の目的

- ・ 持続可能なごみ処理のしくみづくり 「燃やす」から「活かす」へ
- ・ 市内の有機資源「生ごみ」を、メタン発酵して地産肥料「バイオ液肥」へ再生
- ・ 資源の循環で、モノ、ヒト、カネが回る社会へ

事業内容

- ・ 生ごみ、し尿、浄化槽汚泥をメタン発酵し 液体肥料「バイオ液肥」へ再生
- ・ 日本初!! 液肥の濃縮を実現（最大約10倍）
- ・ 年間約1,000トンのバイオ液肥へ再資源化
- ・ 年間約100haの農地へ散布
- ・ 廃棄物処理コストの削減と有機質肥料の自給を実現

2024年秋稼働予定



液肥を濃縮することで、液肥の保管、運搬、散布の時間・コストを飛躍的に削減できます

生ごみ等の有機資源を活かした循環型農業推進事業

得られる
成果等

【成果・解決される地域課題】

- ・ 生ごみの再資源化で廃棄物処理コストの削減
- ・ バイオ液肥の活用で農作物の肥料コストの削減、地産肥料の実現
- ・ 地域内での資源循環で地域内経済循環の活性化

寄附を
する
メリット
等

【企業のメリット/企業との連携イメージ】

- ・ 寄附をきっかけとしたプロジェクトの連携、協業
- ・ 真庭市ホームページ等での企業名の公表による企業PR

【問い合わせ先】

真庭市産業観光部農業振興課農政企画室

TEL 0867-42-1031 nohshin@city.maniwa.lg.jp